

## ■ドイツ：連邦環境相、再生可能エネルギー政策の抜本見直しを表明

アルトマイヤー連邦環境相は2012年10月11日、再生可能エネルギー政策の抜本見直しの方向性を示す文書を公開した。同文書の特徴は、固定価格買い取り制度（FIT）の有効性をこれまで国内外にアピールしてきた連邦政府が、同制度を中心とした現行の再生可能エネルギー政策の欠点をはっきりと認めた点。具体的には、(1) FITでは買い取り価格の適正な設定が困難であり、それによって消費者に過負担が生じること、(2) 再エネ電源の立地が一部の地域に偏るとともに、再エネ電源の導入に伴い必要となる従来電源や送電線の建設が進まず、電力の質を担保できる内容となっていないこと、などがあげられている。以上の問題を解決するために、同文書では、FITによる導入量の上限值（累積導入量5,200万kW）が設けられた太陽光発電と同様の制度を風力とバイオマスにも適用すること、FITに代わる制度（例えば、RPS制度や入札制度など）の検討、信頼度維持のために必要となる予備力（従来電源）を入札制で調達すること、などの対策が記載されている。以上の内容が2012年11月～2013年5月末までの間に関係者と協議、検討された後、2013年6月に新たな再生可能エネルギー政策が盛り込まれた再生可能エネルギー法（EEG）の改正案が作成される予定である。